

平成22年度下期の肉豚生産出荷動向見通し

1. ブロック別の動向

① 現状（平成22年度上期（4～7月）の動向）

（北海道・東北） 前年比104%

- ・廃業等による戸数の減少傾向もみられるが、県内飼養者の規模拡大や事故率の低下等から、出荷頭数はやや増加。

（関東・北陸） 前年比100%

- ・子取り用雌豚頭数の増加や事故率の低下等により増加傾向もみられるが、中小規模飼養者の廃業や経営縮小等により、出荷頭数は前年並み。

（東海・近畿） 前年比101%

- ・子取り用雌豚頭数の減少による減少傾向もみられるものの、サーコワクチン接種による事故率低下等から、出荷頭数はわずかに増加。

（中国・四国） 前年比100%

- ・サーコワクチン接種による事故率低下等から増加傾向もみられるものの、農家の高齢化に伴う廃業等から、出荷頭数は前年並み。

（九州・沖縄） 前年比 95%

- ・サーコワクチン接種による事故率低下等から増加傾向がみられるものの、口蹄疫による肥育豚頭数の減少により、出荷頭数はやや減少。

② 平成22年度下期の見通し

（北海道・東北） 前年比100%

- ・大規模飼養者の規模拡大による出荷頭数の増加が見込まれる地域もみられるが、今夏の暑熱による受胎率の低下等から出荷頭数の減少が見込まれる地域もみられ、出荷頭数は前年並みとなる見込み。

（関東・北陸） 前年比 98%

- ・大規模農家の飼養規模拡大や事故率低下等から出荷頭数の増加が見込まれる地域もみられるが、暑熱により育成率の低下、受胎率の低下、飼養戸数の減少等により出荷頭数の減少が見込まれる地域もみられ、出荷頭数はわずかに減少する見込み。

（東海・近畿） 前年比 99%

- ・サーコワクチン接種による事故率低下等から出荷頭数の増加が見込まれる地域もみられるが、今夏の暑熱の影響による育成率の低下等から出荷頭数の減少が見込まれる地域もみられ、出荷頭数はわずかに減少する見込み。

（中国・四国） 前年比100%

- ・サーコワクチン接種による事故率の低下等から出荷頭数の増加が見込まれる地域もみられるが、暑熱の影響による受胎率、育成率の低下による出荷頭数の減少が見込まれる地域もみられ、出荷頭数は前年並みとなる見込み。

(九州・沖縄) 前年比 92%

・大規模飼養者層の経営規模拡大等による出荷頭数の増加が見込まれる地域もあるが、口蹄疫の発症及びワクチン接種に伴う母豚及び子豚の殺処分による出荷頭数の減少が見込まれる地域も見られ、出荷頭数はかなりの程度減少する見込み。

2. 全国の動向

① 現状（平成22年度上期の動向）

	22年4～7月	8～9月
全国と畜頭数（千頭） 前年比 (%)	5, 430 (99)	2, 477 (100)

(A)：農林水産省統計部「食肉流通統計」

(B)：肉豚生産出荷予測（平成22年8月31日公表、宮崎県の出荷頭数を除く）

② 平成22年度下期の見通し

平成22年度下期（10～3月）の全国肉豚出荷頭数は、やや減少（前年同期比96～97%）となる見込み。

※本調査は、事前に実施した都道府県調査による22年度下期の見通しであり、農林水産省生産局畜産部食肉鶏卵課が毎月公表している肉豚生産出荷予測とは異なる。